

重点課題

【課題1】③の一「文脈における語句の意味として適切なものを選択する」問題の正答率が27.9%、④の一②「漢字の読み仮名を答える」問題における正答率が72.1%（県88.8%・全国87.6%）。

【課題2】1の一「話し合いの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する」問題の正答率が79.1%（県全国とも89.7%）。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】基本的な漢字の読み・書きの定着が不足していると考えられる。このことから、反復し練習したり定着度をテストしたりして振り返り学習を繰り返し設定する。また、教科書や問題集なども活用して、文脈における語句の意味や内容の読み取りが正しく理解できているか、選択肢を設けて確認しながら進めていく。

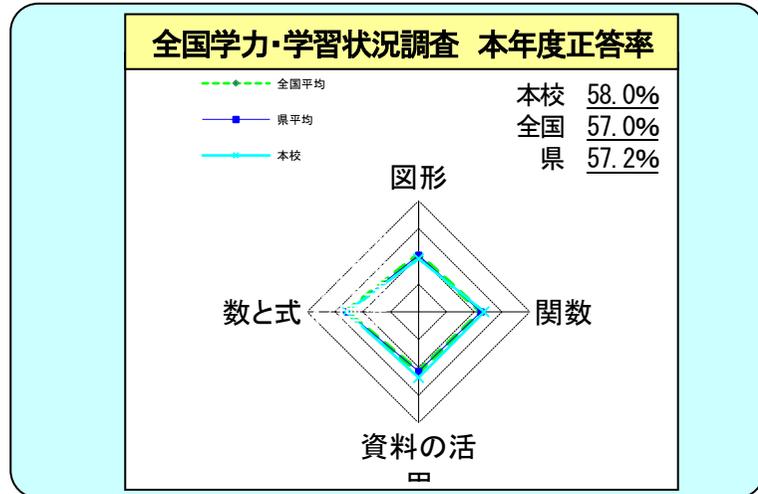
【課題2】話し合いの話題・内容その流れを意識して捉えるために、話し合い活動や「書く・読む」の学習においても、全体を図表で示したり話の展開を意識させる学習を設定する。

※ 小中一貫した取組については、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉え、根拠を明確にしてまとめたり自分の意見を書いたりする指導を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3年中間試験	3年実力テスト		3年期末試験	学年末試験		
目標値	55%	60%		65%	70%		
実施後数値	51%	57%		67%	73%		
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3年中間試験	3年実力テスト		3年期末試験	学年末試験		
目標値	70%	75%		80%	80%		
実施後数値	63%	71%		73%	62%		

来年度に向けて

漢字の読み・書きについては毎週末に宿題を出し、反復させることで改善が見られた。コロナの影響で話し合い活動を効果的に仕組むことが出来なかったが、Google Meet を活用することで来年度は話し合い活動を設定したい。



重点課題

- 【課題1】 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができる。設問9 (1) 図形 正答率 32.6% (県 44.2%, 全国 44.3%)
 「2組の向かい合う角がそれぞれ等しい」という条件で1組の角が等しいことしか証明できていない生徒の割合が 18.6%
- 【課題2】 経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現することができる。設問4 関数 正答率 41.9% (県 47.0%, 全国 48.0%)
 「影の長さ」と「経過した時間」を逆にしている生徒の割合 37.2%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】 図形の性質を証明する問題では、根拠となることばを①, ②, …などナンバリングさせるだけでなく、その理由も確実に書くように指導する。また、その問題の条件を変えても同じことが言えるかどうかを問いかけて、理由や根拠を基に、説明し合う場を設定する。
- 【課題2】 比例や反比例、一次関数では、 x は y の関数でもあるが、2乗に比例する関数では、それは言えない。3年次の関数の学習では、関数の定義を再度確認したうえで、ともなう変わる2つの数量を例示しながら、関数関係にあるかどうかを、定義を基に説明し合う場を設定する。
- ※ 小中一貫した取組については、計算の過程や結果を理由や根拠を基に、説明する場を設定する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	中間試験	実力テスト	期末試験		学年末試験	小テスト	
目標値	50%	55%	70%		75%	80%	
実施後数値	51%	56%	67%		72%	79%	
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		小テスト	期末試験		学年末試験	小テスト	
目標値		60%	75%		85%	90%	
実施後数値		62%	69%		71%	83%	

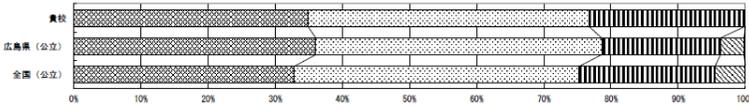
来年度に向けて

理由や根拠を基に、説明し合う場を設定することで、改善が見られた。今後も継続したい。関数かどうかを判断する問題は、まだまだ課題が見られるので、関数を初めて学習する1年生から意識して指導していきたい。

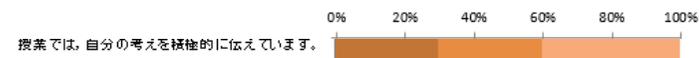
質問紙調査（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）（児童生徒学習意識等調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習

自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか

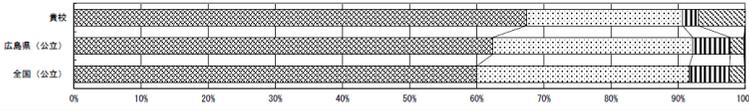


授業では、自分の考えを積極的に伝えています

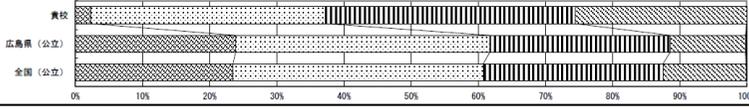


(2) 教科

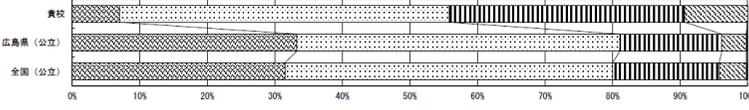
国語の勉強は大切だと思いますか



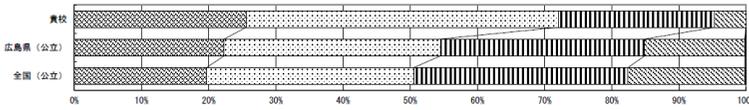
国語の勉強は好きですか



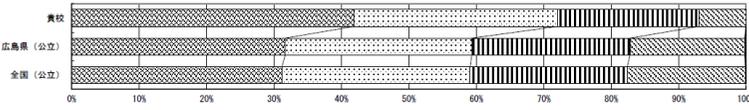
国語の授業の内容はよくわかりますか



数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか



数学の勉強は好きですか



		生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等		「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」の肯定的評価は76.8%（広島県78.7%、全国75.2%）であった。また、学習意識等調査では、「授業では、自分の考えを積極的に伝えています」の肯定的評価は60.0%であった。	自分の考え・思っていること・感じていることを表現したり、伝えることに課題が見られる。授業においては、自分の考えを表現することに苦手意識のある生徒には話型を提示するなどして、表現する場を設定する。また、自主学習ノートの日記欄では、事実だけを書くのではなく、その日に思ったことや感じたことを書くように指導する。自分の考えが書けている生徒については必ず肯定的評価をする。	2・3年	2年 70% 3年 80%	生徒アンケート	12月	
	国語	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	国語	「国語は大切」と考えていることへの肯定的評価は90.7%（広島県92.2%・全国91.6%）であるのに対して、「国語は好き」や「国語はよく分かる」という質問への肯定的評価はそれぞれ37.2%（広島県61.8%・全国60.8%）・55.8%（広島県81.2%・全国80.1%）であった。	国語に対する難しさを感じる生徒の割合が多い。国語における回答率の低い問題の内容から見ても、基本的な漢字の読み・書きや文脈における意味を正答できないところがあり、文章の内容をつかむところに困難を感じていると考えられる。従って、基本的な語句の意味を把握したり読み・書きを徹底することで内容の読み取りを重点課題として授業を考えていくこととする。	3	60%	期末試験またはその前後での小テストにおいて、文章における漢字の読み・書きや文脈上の意味が把握できているかのテストを行う。	11月	
	数学	「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の肯定的評価は72.1%（広島県54.5%、全国50.6%）「数学の勉強は好きですか」の肯定的評価は72.1%（広島県59.4%、全国59.1%）と高い数値ではあるが、数学に関する他の質問への肯定的評価はすべて90%を超えており、それらと比べると低い結果であった。	「数学の授業の内容はよくわかりますか」の肯定的評価が90.7%であった。授業の内容は分かるが、それが普段の生活の中で活用できないと考えている生徒が20%弱いる。そこで、授業において、実生活での場面の数量の関係をなどを、表・式・グラフなどを用いて数学化する活動を多く取り入れることで、生活の中で活用できる視点を養う場を増やしていきたい。実生活での活用場面を理解することで、数学の勉強は好きと答える生徒も向上すると考える。	3	80%	生徒アンケート	12月	